

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：甲斐大騎 所属：大分県立新生支援学校 記録日：2021年 2月 24日

キーワード：

【対象児の情報】

- ・ 学年：中学部3年男子生徒
- ・ 障害名：知的障がい、肢体不自由、重度重複障がい
- ・ 障害と困難の内容
口元を動かしたり、両腕をバタつかせたりするなど、何らかの意思表示と思われる反応は見られるが、不随意運動も多く、見分けるのが困難な状況である。

【活動目的】

4月時点で、彼を取り巻く方々（保護者は除く）からの話を聞いて、その後に自分が彼と少しの時間過ごしてみた印象としてやはり『彼は全く動かないわけでもないし、全てが不随意運動なわけでもない気がする。自分がみた彼は「何かを言っている」とやっぱり思う。』というものであった。しかし、彼が何を言っているかと推測できるかというそれはやっぱり難しくて、何かを「したい」という要求なのか、教師やその他の刺激に対しての反応なのか、それとも不随意運動も含めて反射的なものなのか、それについては現時点では予想も立てることができない状況のように感じている。

同時に、『彼自身への捉え方が（自分も含めて）曖昧な部分が非常に多い』とも感じた。

そこで、今年度の目標を

●彼のことを知ろう《落ち着いて学習へ向かえる環境づくり！》

- ・ 生活リズムや体調についての記録と分析
- ・ 彼が認識しやすい刺激の種類の把握
- ・ 彼が受容しやすい（表出しやすい）感覚の把握

●彼のことを知ろう《俺はこうして伝えている！》

- ・ たくさんのエピソード集めと分析
- ・ 彼の動きの記録と分析

とした。

そもそも彼が一番学習しやすい時間帯（体調も穏やかで学習を受け入れることができる状態）があるのかというところも未知数ではあるが、これまでの前担任や保護者との会話の中で「学校ではよく寝ていたよ（前担任）」「今日はぐっすり寝ているはずですよ。私も寝ているのでわかりませんが（笑）（保護者）」など、睡眠に関する話をよく耳にしてきた。さらに「なんか不安そうな顔をしているね（保護者）」と彼に話しかける姿も見受けられた。彼の生活リズムを知り、安心して過ごせる環境の要素を明らかにすることで今後、学習を計画する際に生かせると想定している。

彼にとって何を学習として計画していけるかは、エピソード分析から導き出して行きたいと想定している。

- ・ 実施期間：2020年5月から9月（9月以降体調を崩して入院してしまい、現在も入院中である）
- ・ 実施者：甲斐大騎
- ・ 実施者と対象生徒の関係：担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の**事前**の状況

《生徒について》

〈移動・姿勢〉

- ・常時、車椅子に乗車している。首は座っていないこともありリクライングの角度は60度から45度くらいの姿勢で過ごしている。
(割と仰向けに近い)
- ・車椅子での自走はできず、移動も含めて身辺処理等日常生活を送る上で支援者の全介助が必要である。
- ・医療的ケアを申請しており、校内では吸引・吸入・胃瘻への注入のケアを受けている。
- ・車いす乗車時には、じっと体の動きを止めている時間があれば、目視で分かるくらい両手をバタつかせたり、目線を動かしたり、口元をもぐもぐとさせたりする時間もある。(その動きを誘発している刺激が何かについては分かっていない)



〈聞こえ〉

- ・新担任である私の声を聞いても明確な反応を示すことはないが同クラスの先生(小学部時代に長い期間担任をしていた先生)の音が聞こえると閉じていた目を開けることが多い気がする。
- ・教師や看護師が隣の部屋で賑やかに話しているとその音がする方へ意識を向けているような気がする。
- ・突然の大きな音に明確な反応をする姿は確認できなかった。

〈見え方〉

- ・ペンライトを追視することはなかった。(1回実施したのみの結果なため確実ではない)
- ・絵本の読み聞かせをすると、声のする方と絵本の方に交互に視線を向けている気がする。
- ・賑やかな音がする方へ視線を向けている気がする。

《取り巻く生活環境との関わりについて》

- ・保護者の送迎で学校へ通ってきている。
- ・小学部時代は訪問教育を受けていた。(その時の担任が、現在同クラスのU先生で、U先生の声には反応することが多い気がする。)
- ・弟妹がいて、家では賑やかな環境にいるとのこと。
- ・保護者の方も、彼に対して非常に愛情を持って接しておられると引き継ぎを受けている。
- ・家、学校、リハビリなど様々な場所でいろんな人と関わる機会が多いとのこと。

《意思の表出と興味関心について》

〈意思表出の手段〉

- ・腕の上下、掌の開け閉め、指の曲げ伸ばし、口元をもぐもぐする、舌を前後に動かす、目線をキョロキョロと動かす、まばたき、に何らかの意思が反映されているような気がする。(5月時の第1印象)

〈興味関心〉

- ・絵本の読み聞かせは関心が高いらしい。(保護者談)

- ・いくつか聴き慣れた歌がありそれらにはいつもとは異なる反応を示すらしい。

《前担任や昨年度からいらっしゃる先生方の、彼への印象》

(昨年度からいらっしゃる先生方)

- ・「正直、あんまり M さんの姿は学校でみないんだよね…」
- ・「あんまり彼のことは分からないんよねえ…」
- ・「M さんはほとんど動いたりはないよ」
- ・「なんかじっとしている感じがなあ…」
- ・「ほとんど見ない日ばかりだったな」
- ・「何かを伝えてきたりとかはないと思うよ」

(前担任)

- ・「動きは全くないわけではないんやけど、ほとんどが不随意運動だろうね」
- ・「ほぼ寝ていることが多いかな」
- ・「聴き慣れた声とか歌とかにはなんか反応している気はするんやけどね」
- ・「俺も M くんのごことは知りたいと思ってたんやけど、休みが多かったり医療的な処置が多かったりでなかなかゆっくり見る時間が取れなかったのは反省かな…」
- ・「視力はあって、よく見えていると信じてあげたいよね。これまでの教師も見えているつもりで支援してきたしね。」
- ・「この先生だから〇〇、この授業だから寝よう、みたいな判断をしていることはないと思うよ」

* 学校が、大規模校が故の事情や昨年度までの学部事情もあるため、このような感想や印象を持たれている先生方が無関心であるというわけでは決してないです。(念のため)

・活動の**具体的**内容 * 5月14日から全校児童生徒3分割での分散登校が始まった。

●彼のことを知ろう《落ち着いて学習へ向かえる環境づくり！》

・生活リズムや体調についての記録と分析

〔5月〕

保護者にも協力をお願いして一定期間、睡眠の様子、体調、発作の有無、その時の彼の様子などを記録するようにした。年度当初で、保護者とも信頼関係が気づけていない状態だったこともあり、最初から計画書で想定していた〈google form などを用いた簡単なアンケート形式の記録〉は提案せず、登校時に保護者、学校看護師、担任、クラス担任、養護教諭で行う登校時チェックの際に詳しく聞き取り、手書きメモを蓄積していく形で始めた。

メモを蓄積していく中で、彼の生活のリズムや、体調面に影響を及ぼしているであろう要因（発作、天気、体温、排泄、気になる体調など）が見えてくれば、記載すべき項目が明らかになるため google カレンダーにまとめていき視覚的に分析する方向で考えていた。

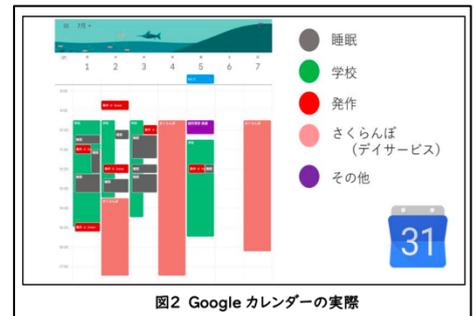


図2 Google カレンダーの実際

▲魔法の Wallet 実践報告書：城野先生に許可をいただきイメージ資料として記載させていただいています。

●彼のことを知ろう《俺はこうして伝えている！》

・たくさんのエピソード集めと分析

・彼の動きの記録と分析



昨年度の担任 A 先生、彼のことをよく知る旧担任（同クラス U 先生）、保護者、看護師、自分に、それぞれ

- ①これまでの彼の印象的なエピソード、
- ②彼が心地よいと感じていたエピソード
- ③彼が嫌がっていると感じたエピソード
- ④彼が楽しんでいると感じたエピソード
- ⑤彼の興味関心について

などを聞き取る。その際、なぜそう思ったのかについて根拠となる情報も聞き取る。またその話には自分なりにどの程度自信があるかも併せて聞き取る。

・対象児の**事後**の変化

●彼のことを知ろう《落ち着いて学習へ向かえる環境づくり！》

・生活リズムや体調についての記録と分析

〔6月〕

5月の登校日は計3日、6月の登校日が計9日。これまでの12日間のうち3日は、登校後も睡眠状態が続き、学校での活動はほとんど確保できないまま下校となった。また、コロナ対策のため大幅に短縮された授業時間が大きな壁となった。(表1)

記録をまとめると、おおよそ表1のような学校生活の時間になることがわかった。彼の学校生活のリズムから考えると、応急的な痰の吸引などがなければ11:20から30分程度の活動が見込めることは分かった。(逆に言うと、この30分が落ち着いて学習に取り組める唯一の時間となる)

*水分注入時や、給食時は医療的なケアが優先されたり、給食時間に向けて他学年から彼の教室に医療的ケア対象生徒も集まってきたりする。そこで、ある程度刺激を抑えて落ち着いて活動できる時間を活動①、②としている。

〔7月〕

7月8日から一斉登校が始まった。それと同時に、彼が登校時から給食後まで睡眠状態が続くことが増えた。7月で、30分以上学習場面を設定できたのは、3日・9日・13日・17日・28日(*表2の赤枠)であった。

保護者の方と体調面について情報共有した結果、

- ・深夜は眠れているだろうが、時間までは確実ではない。
- ・一斉登校が始まり疲れもあるのかもしれない。
- ・もともと睡眠のリズムは一定ではないらしい。
- ・無理やり起こして、起きてしまえば機嫌は良いから起こしてください。
- ・発作があって寝入っている時もありますね。
- ・少しでも学校の雰囲気を感じられればそれで十分です。

といった内容で話をした。これらの内容を受けて、また表2のデータも加味して実践者としては、

- ・保護者の言う通りで、**4月以降学校のリズムがそもそも安定していないため、彼としても生活リズムが安定しづらい**のではないかと。
- ・特に保護者の心境としては「学校に行くだけで満足です。学校から帰ってきたら嬉しそうな表情をしていると、それだけで十分です。」とのこと。
- ・特に**学校で起きている時と寝ている時の違い**(吸引など医療的なケアの前後、給食の前後、下校前、午前・午後、音楽の授業の前後などのタイミング、天候、気温などの外的要因)は**体感としては見当たらない**。
- ・実際に、登校時間、吸引、トイレ交換、体温、発作、入眠などの事実の項目をリストアップしてみたが、

Mくんの主な1日の流れ

10:45	登校
10:45~11:05	登校時チェック(看護師による)
11:05~11:20	水分注入
11:20~11:50	活動①
11:50~12:00	トイレ交換
12:00~13:30	給食準備、注入など
13:30~13:40	活動②
13:40~13:50	トイレ交換
13:50	下校チェック(看護師による)
14:00	下校

▲表1

2020 7月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1 リハビリ後 12:00登校	2	3	4
5	6 臨時休校	7 臨時休校	8 リハビリ後 12:00登校	9	10	11
12	13	14	15 リハビリ後 12:00登校	16	17	18
19	20	21	22 リハビリ後 12:00登校	23 祭日	24 スポーツの日	25
26	27	28	29 欠席	30 欠席	31 記録なし	1

▲表2

思った以上に煩雑であった。また、睡眠に関しては、深夜の彼の睡眠の様子も含めないと活用できる情報にはなりにくいと考えると、保護者の方の負担も増えてしまうことが懸念点。

・現状、学校で確実に設けられる活動時間は11:20からの30分のみ。

と考え、①コロナの影響で登校リズムが落ち着かない、②保護者の方が細かな体調分析を望んでいない、ことから、今回は google カレンダーや google form での体調記録とそのデータの活用は一旦先延ばしにし、現状通り保護者の方と会話の中で情報を聞き取り、手書きメモに残していくこととした。

その中で、保護者とは、

「登校時に彼が入眠していたら、いつもより詳しく前日の様子から登校直前までの彼の睡眠の様子や気になる出来事を教えてください。」

「登校後も入眠していたら、部屋を暗くして無音の状態を作ります。ぐっすり眠れるような環境で過ごしつつ、15分おきに揺すったり言葉かけをしたりして起こしてみます。」

「眠った状態でも、まずは学校に來れていることを認めていきましょうね。」

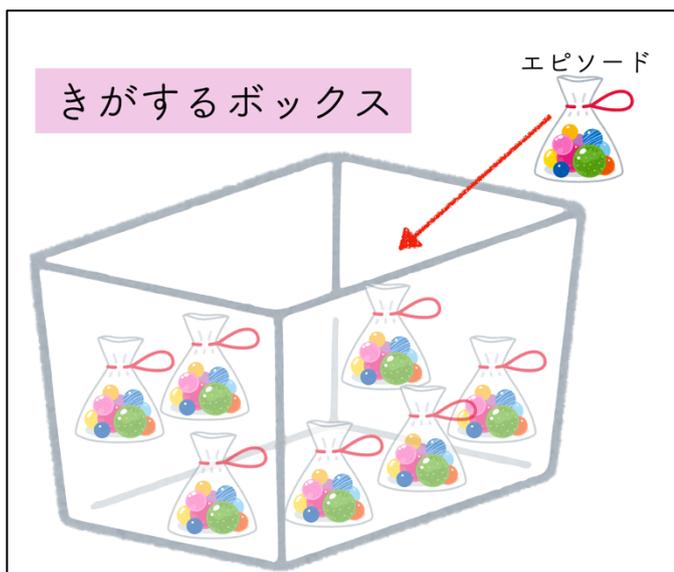
「今後も、睡眠状態が安定しない、もしくは学校生活が寝てしまっただけで気になってきたら以前紹介した Sleep cycle alarm clock というアプリなども活用して彼のことを見ていきたいですね。」

と話した。

*手書きメモを記録しつつ気になることやヒントになりそうなことが見えてきたら、記録方法を変更し彼を知る手掛かりにつなげていきたいと考えていた。それまでは、《落ち着いて学習へ向かえる環境づくり！》ではなく、《落ち着いて学習へ向かえる状況を気にかける》とし、実践の主軸は、彼への刺激と反応の部分とした。

●彼のことを知ろう《俺はこうして伝えている！》

・たくさんのエピソード集めと分析



▲イメージ

彼に関するエピソードを集めた。今回は、お聞きした方々の主観を大事にしていきたいと考え、「〇〇な時は楽しそうだった気がする」「〇〇とか好きだよ。（な気がするよ）」「〇〇の時はちょっと嫌そうだった気がする」「〇〇とかよく分かっているよね（気がするよね）」を、『きがするボックス』にたくさん書き集めていった。

Mくんエピソード

何が	様子	自信	誰
おもしろ靴下いじられ	楽しそう	一緒にしたことがある	看護師
ハプニング的出来事	好き	一緒にしたことがある	母
ハプニング的出来事	好き	一緒にしたことがある	U先生
大人の会話	気にしている	見たことがある	母
ヒソヒソ話	気にしている	見たことがある	母
マッサージ	好き	検証したことがある	U先生
キラキラシャボン玉	気にしている	一緒にしたことがある	私
大スクリーン花火	好き	一緒にしたことがある	私
大スクリーン花火	好き	見たことがある	母
知っている音楽	笑う	一緒にしたことがある	母
本物の花火	ソワソワする	一緒にしたことがある	母
お出かけ	楽しそう	一緒にしたことがある	母
人間	気になる	一緒にしたことがある	私
歯ざしり	嫌だ	一緒にしたことがある	母
歯ざしり	嫌だ	一緒にしたことがある	看護師



▲エピソード

自信は大きく4段階
 [検証したことがある(比べたことがある)]
 [一緒にしたことがある]
 [見たことがある]
 [聞いたことがある]

Mくんエピソード

何が	様子	自信	誰
絵本	見ている	一緒にしたことがある	前担任
抱っこ	好き	一緒にしたことがある	U先生
そよ風	気にしている	一緒にしたことがある	私
激しい風	好き	一緒にしたことがある	U先生
激しい風	好き	一緒にしたことがある	母
ガタガタ揺れ	楽しんでいる	一緒にしたことがある	私
ガタガタ揺れ	楽しんでいる	一緒にしたことがある	U先生
U先生の声	気にしている	一緒にしたことがある	私
U先生の声	好き	見たことがある	看護師
学校	好き・楽しい	検証したことがある	母
振動遊び	楽しそう	見たことがある	U先生
絵本	聞いている	一緒にしたことがある	私
絵本	喜ぶ	一緒にしたことがある	U先生
外を散歩	大好き	一緒にしたことがある	母
外を散歩	好き	見たことがある	看護師
友だちの声	好き・気になる	一緒にしたことがある	私
友だちの声	好き・気になる	見たことがある	母
朝の会でのベル鳴らし	分かっている	一緒にしたことがある	w

自信は大きく4段階
 [検証したことがある(比べたことがある)] [一緒にしたことがある]
 [見たことがある] [聞いたことがある]

これらの集まっていくエピソードをひとつずつ彼と確認していった。その際、今回は彼の反応を引き出している刺激が何なのかを明らかにしていく視点を持って取り組んだ。

〔①屋外好きエピソードの検証〕



▲「M's MAP」と名前をつけ教室に掲示していた

拡大



*黄色シール→予想される**刺激**

(言葉かけ、ガタガタ揺れ、そよ風、トラクター音、校長先生、など)

*白シール→彼の**反応**

(指をピン、口をもぐもぐ、のけぞる、全身バタバタ、目をキョロキョロ、など)

8月に入り、気温が高い日が続いたため、中断したが、9月時点で7回取り組み、33の反応と刺激を記録した。9月時点では「この刺激には必ずこの反応を示している」という確証はできず、また屋外ということで彼に働きかけている刺激自体も、気温・日差し、湿度、風、揺れ、騒音、など一つには絞れない現状もあった。しかしこの結果から「彼は確実に何かしらの刺激を受け取っていて、何かしらの反応を示している」ことは明らかになったと考えている。また、教室に掲示したことで、

保護者「え～、M君、いろんな動きをしているんやなあ」「校長先生がきたら動きがとまったん？緊張したん？誰って思ったん？」看護師「M君って、意外と反応わかりやすいよね」

他学年の先生「こんなにたくさん反応しているんやね」

のように、周囲から見たMくん像や、M君の見られ方に多少変化は起きてきたのではないかと考えている。

〔②マッサージ好きエピソードの検証〕

マッサージが好きというエピソードから、彼の反応とそれを引き起こしている刺激を探ってみた。

(* マッサージ前のベースラインは、明らかな動きが見られない状態)



- ①ビデオ記録をして、彼の反応がみられたシーンを取り出す
- ②刺激の有無ごとに動画に切れ目を入れてわかりやすくする
- ③動画を早送り再生することで、彼の反応を見えやすくする
- ④分析

マッサージエピソードは、その中に、

刺激—膝の裏を撫でたり、くすぐったりする

反応—両手をバタバタさせる、口をもぐもぐさせる、頬を緩める



『マッサージ』 が詰まっていた。また、刺激に対して反応が増えた状態で、実践者が刺激を止めるとその反応は減った。再度、刺激をすると反応は増えた。(反応が、増えて→減って→増えた)

* 実践者が刺激を止めている間、催促するような動きも見られた。今後の大きな手がかりになる部分なため、さらに回数を重ねて検証していく予定だった。

〔③スクリーン花火が好きエピソードの検証〕

教室内に設置した縦2m、横3mのスクリーンに花火映像を投影した。その映像を見ている最中に、

1. 映像・音どちらも停止する。
2. 映像のみ停止する
3. 音のみ停止する

の刺激の細分化を行い、その様子をビデオ分析した。



▲スクリーンに花火を投影して鑑賞

音刺激	●	○消	●	○消	●	●	●
映像刺激	●	○消	●	●	●	○消	●
反応	動きは少ない	歯ぎしり	動きは少ない	歯ぎしり	動きは少ない	動きは少ない	動きは少ない

時間の流れ →

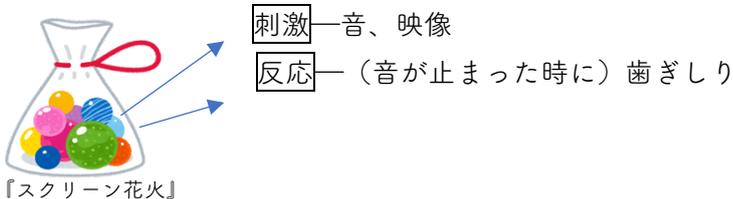
▲表3

*ビデオは、彼の顔の近くに設置した。

すると、表3のような結果が得られた。刺激がある際に反応は少なく、刺激がなくなると反応が増えた。(反応が、減る→増える→減る)

注目したい点は、

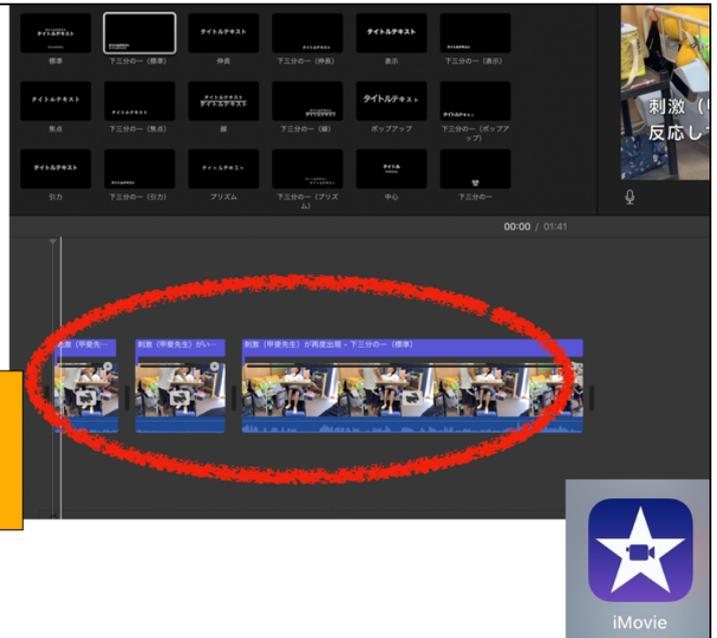
上映中は静かだった彼が、映像・音が止まると、歯ぎしりをし始めた点である。もともと、『きになるボックス』にエピソードをためていた時にも歯ぎしりの話は出ていた。その時は、「嫌なことがあると歯ぎしりをする」という保護者からいただいたエピソードだった。その話から想像すると、今回の歯ぎしり反応は、今後の見通しとして可能性を感じる場面であるように感じていた。あくまでも、実践者の推測の域は超えないが、花火の映像が消えたことに対して彼が「先生、消えたよ?」「なんか変だよ?」「ねえねえ」のような、注意喚起のような、意思表示のような、そんな意図で歯ぎしりをしていたとしたら、今後広がりを見出していける気がした検証となった。



〔④ハプニング的出来事と、人間が好き?エピソードの検証〕

ある日、ベッドから彼を抱き抱える際に、彼の爪が伸びていたこともあって実践者の顔を大きく引っ掻いて出血させてしまうハプニングがあった。ちょうど教室に学校看護師もいたことから、「あ! 甲斐先生、血が出ています!」「わー!」「あらー! M君ちょっとー!」のように少しわちゃわちゃした雰囲気になった。その後、実践者が彼のそばにいくとどこことなくバツの悪そうな様子の彼は実践者の腕を掴んでいた、口元をもぐもぐさせたり、両手をバタバタと動かしたり、よく動く感じだった。(ここまではあくまで主観)そこで、その後、一度実践者がその場から立ち去り、少し時間を置いて再度彼に関わりに行った際の様子をビデオに記録しておいた。

(* 実践者が彼のそばに行く前のベースラインは、明らかな動きが見られない状態)



- ①彼の反応がみられたシーンを取り出す
- ②刺激の有無ごとに動画に切れ目を入れてわかりやすくする
- ③動画を早送り再生することで彼の反応を見えやすくする
- ④分析

ハプニングエピソードは、その中に、



刺激—賑やかな担任

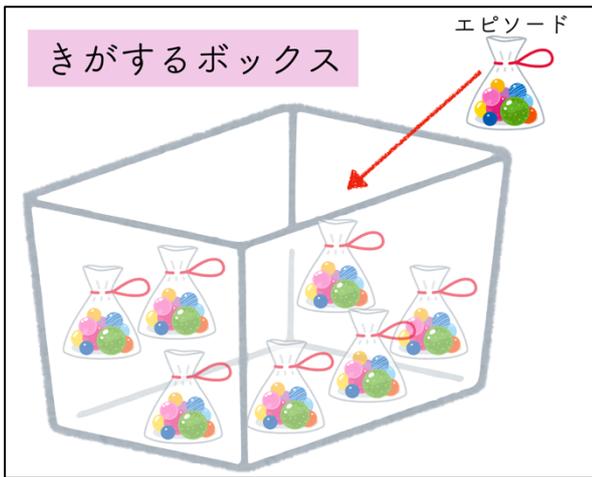
反応—両手をバタバタさせる、口をもぐもぐさせる、頬を緩める

『ハプニングエピソード』

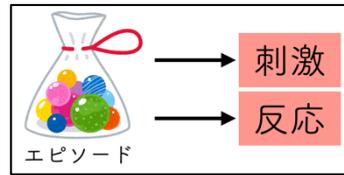
が詰まっていた。また、刺激に対して反応が増えた状態で、刺激がいなくなるとその反応は減った。再度、刺激をすると反応は増えた。（反応が、増えて→減って→増えた）

* 実践者が刺激を止めている間、気配を伺うような動きも見られた。そこについては今後の大きな手がかりになる部分なため、さらに回数を重ねて検証していく予定だった。

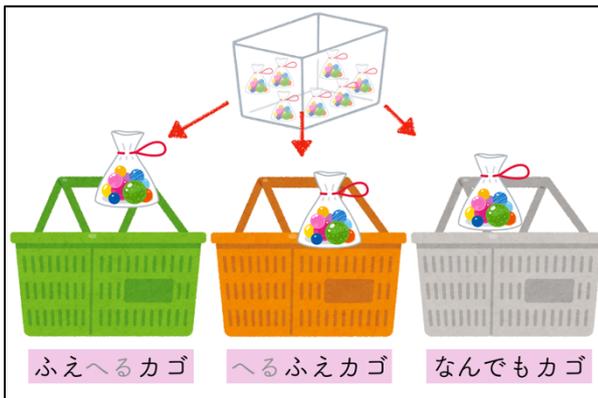
《(今回は実現できなかったが) 9月以降の活動の見通し》



『きがるボックス』に入ったエピソードを検証していく中で、エピソードに含まれる**刺激と反応**を切り出し、彼が刺激に対してどう反応しているかを分類していく。



—刺激について—



刺激に対しての彼の反応の種類ごとに分類していく。

『ふえへるカゴ』⇨刺激に対して反応が増えて、刺激がなくなると反応がへる

『へるふえカゴ』⇨刺激に対して反応が減って、刺激がなくなると反応が増える



基本的に彼のベースラインとなるのは、大きな動きが見られない時である。その状態から、刺激に対して反応が増えたエピソードは、『**反応の確保**』につなげていく。刺激に対して反応が減ったエピソードは『**因果関係の気づき**』につなげて彼の『**外界への気づき**』や『**意思表示の始まり**』のようなコミュニケーションの部分に少しでも取り組んでいけたら理想的だと考えていた。

—反応について—

刺激について整理することと並行して、反応についても

- ・いつでも見られる反応 (不随意運動なども含む)
- ・活動があまり好きではない、興味がない反応
- ・興味があると思われる時に出る反応
- ・注意を向けていると思われる反応
- ・注意を向けている状態で中断した時にのみ (もしくはその時に多く) 出てくる反応

のように整理していく。

9月時点での見立てでは、おおよそ

- ・『ふえへる』刺激の時に、興味がある反応（動きがせわしなくなる）
- ・『へるふえ』刺激の時に、注意を向けている反応（動きがより小さくなる）
- ・『へるふえ』刺激の時に、注意を向けている状態で中断した時にのみ出る反応（歯ぎしり）

のような関係があり得るのではないかという想像はしていた。刺激に対して反応が減った時には、すぐに「注意を向けている反応」と意味づけすることなく、「動きが減ったのはただ興味がないだけ。気が向いていないだけ」のように、別の解釈も常に頭に入れておくことを忘れないようにしようと考えていた。また、「注意を向けている反応」と判断した根拠について説明できる理由を見出す予定だった。（9月時点では、動きの減少を明らかに証明できるほどの活動前後のベースラインの記録が乏しいと感じている。）

これら刺激と反応の整理を通して、彼が反応した結果→刺激が再現される体験を積み重ねていき、学びとしての経緯を残していく予定だった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

彼を取り巻く方々の主観的エピソードをたくさん集め、客観的に検証できる手段（ビデオ分析）で一つずつ確かめていくことは彼を知る上での道しるべとなりうるのではないか

⇒主観的なエピソードは、“教師にとっても彼にとってお得な情報”である！

・エビデンス

〔*好きな音楽が分かる？エピソードの検証〕

実践者がなんの予備知識もない状態で、二つの曲を提示した。



左側：曲 A / 右側：曲 B

二つの記録動画を横並びにして同時再生することで彼の反応の差を見出すことができた。

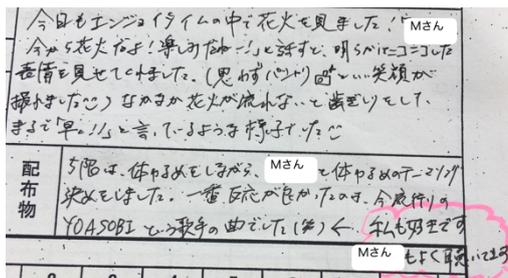
動画上では、曲 B（右側の動画）を聞いた時に彼の反応が大きく見られた。

この検証の後に、気づいたことだが、保護者から頂いた話の中に「好きな音楽を聴いたら笑う（反応）よ」エピソードがあった。

そこでこの様子を伝えると、

保護者「ああこの M 君は、この曲知っちゃうんって思ってる顔やなあ！実際、この曲 B は車の中でよく聴く歌ですよ～！」という感想をいただいた。

偶然が重なったエピソードではあるが、彼の反応に対する支援者側の捉えが、客観的に捉えたものと主観的に感じていたものが一致することがあった。保護者と違い、教員としては彼の反応への意味づけ（笑ったから好きなんだね、のような）はまだできないが、少なくとも見立ての方向性が同じであったという点には有意義な結果と感じた。



▲保護者の方が書いてくれたその日の連絡帳

もちろんこの検証だけでは、「彼は知っている曲には反応する」とまでは言い切れず、「もしかしたら知らなかった曲だから逆に反応しなかった（運動が減った）」可能性もあると考える。しかし、明らかに聞いたことがある曲とそうでない曲では彼の反応が違っているという点では、刺激を需要して反応しているということと言えるのではないかと考えている。

*その後、保護者の方とお話をした際に、「Mさんの、楽しそうな姿や帰宅後に学校が楽しかったんだねってお母さんが思う姿ってどんな姿ですか？」と聞いた。保護者の方は「目がキョロキョロしたりとか、なんかせわしない感じの時ですかね。腕とか、表情とか。」



(笑)つまらん時とかは、なんか無表情。眠たい時もあるだろうけど。(笑)」とおっしゃっていた。彼がせわしなく動く時に、保護者がどのような働きかけをしているのかまでは聞きとれていないが、(そこまで聞くと少し保護者の方が子育てに負担に感じる可能性もあるというU先生の助言を元に自粛。)大きな捉え方として『彼を一番よく知っている母が思う彼の(楽しそうな)意図的な姿はせわしなく動く様子である』とした時、これまで検証した刺激の選別をする際の判断基準と一致していると感じた。

～終わりに～

生徒からの表出に含まれた意図が支援者側では読み取れなかったり、生徒側に明確な反応がなかったりする時、どこからこの子との関わりや学びの構築を始めれば良いのかが分からないことがある。(今回の私がまさにそう)そんなとき、生徒自身との関わりの中で道を見出していく方法と並行して、これまでその子と関わってきている人が持っている“お得な情報(エピソード)”を教えていただき、それらを整理してから一つずつ検証する、その検証の部分には客観的に判断できる仕組み(ビデオ記録・分析)を使いながら…この流れはきっと生徒にとっても経験があって確率的には嫌ではない可能性が高い活動が提供されて、支援者側にとってもその子のことが分かる可能性が高い活動の中で視点を持って関われるという意味では“お得”であると感じた。

今回は、そのお得な“場”を提供したところがメインの実践となってしまったが、検証の部分について、ベースラインを明確にして刺激の介入前後を見比べる、刺激の種類ごとに分類してみる…と、積み重ねていければ、彼と共有しあえる“何か”をつかむことができたのではないかと感じた。そして、その“何か”を元に、彼が中断されたら反応したくなるような場を構築していくことで彼の反応をより意義あるものにしていけるように今後も関わっていきたいと思っている。